The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	モザンピーク共和国
Author(s)	大町, 佳代
Citation	目で見るWHO. 2011, 47, p. 19-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86771
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

モザンビーク共和国

平成20年度 モザンビーク共和国派遣
大 町 佳 代（青少年活動）

Kayo OMATHI
1980年　兵庫県生まれ
2006年　関西学院大学社会学部社会福祉学科卒業
幼稚園教諭、保育士、社会福祉主事
聖和大学短期大学部保育科卒業後、関西学院大学社会学部社会福祉学科に編入し、ソーシャルワークを学ぶ。在学中に2年間休学し、カンボジアにて活動しているNGOにて現地常駐スタッフとして活動。卒業後、モザンビークにて活動しているNGOに所属しHIV/AIDSのプロジェクトにて1年間活動後、青年海外協力隊として、再びモザンビークにて2年間活動。現在、国際協力分野での就職が内定。

ポルトガルからの独立後も17年にもわたる長い内戦を乗り越え、今ようやく復興から開発への道を歩んでいる国、モザンビーク。少しずつ国の発展へ向けて立ち上がっていくかのように見えた国に新たな問題が立ちはだかった。内戦終結後、経済や商業の発展に伴い国内外の人々の移動が活発になってきたことにより国道沿いを走るトラックの運転手・売春婦・主要な輸送路の近くに住む人々の間で、また、地域に根付いた伝統的医療の現場で、HIV/エイズの流行が深刻になっている。2010年の時点で、同国における15-49歳のHIV感染率は11.5%と言われており、全人口では、約150万人に達したとも言われている。

エイズにおける差別をなくす為の啓発

私は、モザンビークの首都マプトから1600km離れたザンベジア州に赴任し、町の文化センターにて女性の地位向上や青少年の情操教育を目的に様々な活動を行ってきた。赴任当初、配属先からの要請は理論を中心とした音楽の市民向け授業を外部講師とともに開催することであった。しかし、彼らの日常に根付いている伝統ダンスに注目し、ザンベジア州に先祖代々残っている伝統ダンス・リズムを利用した青少年の伝統ダンスグループを立ち上げ、バス停・市場・学校・病院・保健所など人々が集まりやすい場所で踊りと劇を用い、HIV/エイズ・マラリア・衛生教育・家庭内暴力・ドラッグなどをテーマとしたありとあらゆる予防啓発活動を行うようになった。

コンドームの使用法を実演するダンスグループのメンバーと協力隊員（左端が筆者）

設立目的は、伝統ダンスをただの余暇の為のものに終わらせず、情報が行き届かない地方や現地語しか話すことができない人たちにも、伝統ダンス・太鼓のリズム・歌唱を通し、必要な知識・メッセージを伝えていくことで今後の国の開発に少しでも貢献できるものに育てていくことであった。

年齢も生活環境も異なる若者と共に、「予防」という枠の中で人々にすでに根づいている習慣を変える「人の行動変容」の部分に拘り、コミュニティの中でメッセージを発信し続けてきたことで培った忍耐力と発想力、また彼らから得たエネルギーは、はかりしれない。チームの中で人間対人間の信頼を築きあげていく中でモチベーションを高め、自分一人ではどうにもならないことも周囲の人々を巻き込み影響を与えていくことで結果がおのず

と変わってくることを彼らと共に日々学んだ。

数々の公演の中でも、橋梁建設の現場で働いているワーカーへのHIV/エイズ予防啓発活動をテレビやラジオなどのメディアの協力を得て地域に発信したケースでは、グループのプロモーションにもつながり、市民に大きなインパクトを与えた。

村の中での啓発活動

踊ることは生きること。手足を伸ばし、空を仰ぎ、太鼓のリズムパーカッションにのせて自分が生きていることを体でめいっぱい表現する。その上でいかにメッセージ性をもった劇内容を盛り込んでいくか。モザンビークに生まれ育ってきた彼らだからこそ、彼らの目線において、国の現実や問題と向き合いながらひとつひとつのテーマに沿った振り付けができていく。表現していく中で重要となってくるのは、いかに一人の人のメンタリティの中に入り込めるか。それが見ている人々の深い胸の奥の部分を揺さぶり、自分たちだけで公演するのではなく、観客として見ている市民もともに一体になって参加できる空気を創り上げる。まるで人々が魔法にかけられたようである。

また、伝統ダンスグループとの活動の傍らザンベジア州に残る伝統ダンス調査を配属先の同僚と共に行い、本・DVD・CDとして残すことができた。

世代交代につれ、踊りの中には絶滅に瀕している種もある。これらの無形文化財を後の世代に引き継いでいく為に目に見える形で残す視覚教材を作成し、全国の図書館・文化センター・教育文化省などに配備し、一般市民がいつでも見ることができるようにすることが目的だった。伝統ダンスの調査は、活動計画・調査・執筆活動・CD・DVD編集作業・製本作業などの期間を考えると、2年間がかりの活動であった。収録してきた貴重な歌唱や伝統ダンス、リズム、各伝統ダンスの太鼓のリズムの叩き方、そして伝統ダンスを先祖から引き継いでいる人々のインタビューシーンなどは、ザンベジア州の文化を他州に紹介する意味でも役立てることができ、またモザンビークの伝統ダンスグループ、その他のアーティストにとっても、有効に活用することができる。

伝統ダンスグループのメンバー

地方での調査中、予想だにしないことがおこったり、交通の不便の為やむを得ず引き返したり、気の遠くなるような道のりであったが、旅の間中生活のすべてを共にしながら過ごした同僚たちとの密な時間は、なにものにも変え難い大切な時間であったと言える。彼らの人生観・世界観・生活観・文化観・家族観を、普段は話をしない深いところまでいろんな角度から本音で話すことができたことで、彼らも日本で生まれ育ち現在自分たちと共に働いてしている私という存在を、同僚としてありのまま受け入れてくれるようになった。

自分のいのちを生きるということ。彼らから学んだメッセージを胸に、今日もモザンビークで踊り続ける彼らとともにこの国の豊かな未来を願い続ける。